

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティⅣ (HospitalityⅣ)	必修 選択	必修	年次	4年	担当教員	杉本佳史 三輪陽子
学科	スポーツマネジメントテクノロジー科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	前期・後期
コース	プロスポーツAIトレーナーコース スポーツマネジメントテクノロジーコース			(単位)	2	曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 実社会で使用されているテクノロジーを知り、今後必要となる分野を先取る。ホスピタリティを活かし、未来を創造する。							
【実務経験】 日本ホスピタリティ推進協会　ホスピタリティコーディネータ認定講師							
【到達目標】 ホスピタリティ（付加価値共創）は、サービス（等価値交換）の上に乗っているものである。どの分野、社会においてもホスピタリティが必要であることを理解し、実際に使いこなす（習慣づける）ことを目標とする。							

授業計画・内容			
1回目	ホスピタリティレポート		
2回目	ホスピタリティ 校外実習①		
3回目	ホスピタリティ 校外実習②		
4回目	他分野ホスピタリティ 校外実習①		
5回目	他分野ホスピタリティ 校外実習②		
6回目	最新テクノロジーを活用したホスピタリティ①		
7回目	最新テクノロジーを活用したホスピタリティ②		
8回目	海外に活かすホスピタリティ①		
9回目	海外に活かすホスピタリティ②		
10回目	ホスピタリティプレゼンテーション①		
11回目	ホスピタリティプレゼンテーション②		
12回目	ホスピタリティ 校外実習③		
13回目	ホスピタリティ 校外実習④		
14回目	ホスピタリティプレゼン①		
15回目	ホスピタリティプレゼン②		
準備学習 時間外学習	アソシエイト・ホスピタリティコーディネーター対策動画		
評価方法	1. 講義の出席 2. レポート	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	・ 講義への出席日数 ・ レポート提出 ・ プレゼンテーション
受講生への メッセージ	ホスピタリティという知識と習慣を身に付けて日本だけでなく世界へ羽ばたく人材になりましょう！		
【使用教科書・教材・参考書】			
プリント			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業	スポーツ医学	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	西山 伸吾
科目名 (英)	スポーツ医学Ⅲ (Sports Medicine Ⅲ)						
学科	スポーツマネジメントテクノロジー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
コース	昼間 (Ⅰ・Ⅱ部)					曜日・時限	金曜・4限

【授業の学習内容】

スポーツ医学の授業ではアスリートやスポーツ愛好家の方々がトレーニングなど運動中に心疾患や熱中症など内科的疾患で選手やクライアントが倒れたり、体調不良になった際に対応できるようになる。そのためにも内科的疾患について理解し、説明できるようになる。

*実務経験:

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得。2021年3月まで15年間フリーランスとして活動し、現在はスポーツクリニックに勤務している。スポーツ現場では外傷の応急処置だけでなく、熱中症などの内科的疾患の対応も行っている。

【到達目標】

スポーツを行う方々はアスリートからスポーツ愛好家まで性別や年齢も未成年から高齢者まで、それぞれのカテゴリーで引き起こされる内科的疾患も違う。それを理解し、対処できるようになる。

授業計画・内容			
1回目	スポーツ現場におけるスポーツ医学の重要性について説明できるようになる		
2回目	スポーツにおける心疾患について説明できるようになる		
3回目	救命処置（心肺蘇生法など）の実習を行う		
4回目	熱中症のメカニズム、対処方法について説明できるようになる		
5回目	循環器疾患と運動の適応、禁忌について説明できるようになる		
6回目	性別の違いによるスポーツ医学について説明できるようになる		
7回目	年代別（成長期）のスポーツ医学について説明できるようになる		
8回目	年代別（高齢者）のスポーツ医学について説明できるようになる		
9回目	高齢者の運動リスク、運動指導について説明できるようになる		
10回目	メディカルチェックについて説明できるようになる		
11回目	医療・介護・地域連携の実際について説明できるようになる		
12回目	部活動支援の現状とATの役割（病院受診の判断・外傷管理）について説明できるようになる		
13回目	スポーツクリニックでのアスレティックトレーナーの役割（業務）について説明できるようになる		
14回目	定期試験		
15回目	試験解説、授業まとめ		
準備学習 時間外学習	課題や中間テストなどを実施するため、授業で配布したプリントを復習し、理解する		
評価方法	1. 定期試験（80％） 2. 小テスト（％） 3. レポート（％） 4. 課題成果（20％） 5. 実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	内科的疾患も処置が遅れたり、間違っ て対応すると命を落とすことに繋がる可能性もあります。 一つ一つ知識を身につけて行きましょ う。		
【使用教科書・教材・参考書】 日本体育協会 AT専門テキスト4「健康管理とスポーツ医学」			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業	卒業制作	必修選択	必修	年次	4	担当教員	井戸田 修一
科目名 (英)	卒業制作 I (Graduate Work I)						
学科	スポーツマネジメントテクノロジー科	授業形態	演習	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間 (I ・ II 部)			(単位)	2	曜日・時 限	水曜・1限
【授業の学習内容】 4年間の集大成として、学んできた内容を活かしたテーマをグループに分かれて考えていく。卒業制作展「若きクリエイター展」での発表へ向け、計画から、資料作成、プレゼンテーションまでを考え、形にしていく。 実務者経験：大学卒業後、スポーツクラブで約12年勤務。自分自身の現場の中で培った接客等のスキルはもちろん、店長としての現場マネジメントを通して、店舗運営や人材育成等多岐に渡り担当。スタジオレッスンも多数担当。過去1レッスン内にて120名近くの集客実績もあり。							
【到達目標】 卒業制作のテーマを決める卒業制作展「若きクリエイター展」へ向け、計画を立て、その計画に沿って作成を進めていく。							

授業計画・内容			
1回目	卒業制作テーマを決め、計画を立てることができる		
2回目	卒業制作テーマを決め、計画を立てることができる		
3回目	卒業制作テーマに沿って、グループで作成できる		
4回目	卒業制作テーマに沿って、グループで作成できる		
5回目	卒業制作テーマに沿って、グループで作成できる		
6回目	卒業制作テーマに沿って、グループで作成できる		
7回目	卒業制作テーマに沿って、グループで作成できる		
8回目	卒業制作テーマに沿って、グループで作成できる		
9回目	卒業制作テーマに沿って、グループで作成できる		
10回目	卒業制作テーマに沿って、グループで作成できる		
11回目	卒業制作テーマに沿って、グループで作成できる		
12回目	卒業制作テーマに沿って、グループで作成できる		
13回目	卒業制作テーマに沿って、グループで作成できる		
14回目	卒業制作テーマに沿って、グループで作成できる		
15回目	中間発表		
準備学習時間 外学習	資料作成のためのパワーポイントの使い方を復習しておく必要があります。グループでしっかり話し合いましょう。		
評価方法	1. 平常点 (70%) 2. 発表	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	4年間の集大成を形にするとても良い機会です。自分たちの得たものが見える化し、説明できることが、きちんと習得できたという一つの目安になります。興味を持って主体的に取り組んでいってください。		
【使用教科書・教材・参考書】			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業	コーチング	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	松沢 恵美
科目名 (英)	コーチングⅢ (Coaching Ⅲ)						
学科	スポーツマネジメント/ロジック科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間（Ⅰ部）			(単位)	(2)	曜日・時限	火曜・3限
【授業の学習内容】 コーチングの知識を、リファレンスブックで学んでいく。スポーツを通して社会に貢献していく人材として必要となる、コーチングスキルを学び、日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー資格を取得する。							
実務者経験：2003年に日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を取得。その後、ハンドボール、テニス、陸上競技を中心とした現場でコディンング、トレーニング指導を担当。テニスにおいてはプロ選手の専属もおこない、日本テニス協会主催の国際大会においてオフィシャルトレーナーを務める。							
【到達目標】 ①日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダーの資格取得を目指す ②現場におけるコーチング力を身につける							

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション（個々の取り組み・現状を共有する 9		
2回目	スポーツエンターテイメントを知る①（スポーツの競技性視点から）		
3回目	スポーツエンターテイメントを知る②（観戦性視点から）		
4回目	スポーツエンターテイメントを知る③（エンタテインメント要素の視点から）		
5回目	スポーツエンターテイメントを知る④（エンタテインメント要素の視点から）		
6回目	プレゼンテーション		
7回目	コーチングリーダー資格取得に向けて コーチングを理解する①（コーチンに求められる役割）		
8回目	コーチングリーダー資格取得に向けて コーチングを理解する②（対他者力・対自己力を磨こう）		
9回目	コーチングリーダー資格取得に向けて コーチングを理解する③（スポーツの意義と価値、スポーツ権）		
10回目	コーチングリーダー資格取得に向けて コーチングを理解する④（ガバナンスとコンプライアンス）		
11回目	コーチングリーダー資格取得に向けて コーチングを理解する⑤（暴力・ハラスメントの根絶、インテグリティ）		
12回目	コーチングリーダー資格取得に向けて コーチングを理解する⑥（指導者の法的責任、スポーツ仲裁・スポーツ倫理）		
13回目	まとめ		
14回目	定期試験		
15回目	解説		
準備学習 時間外学習	授業中の板書及び、配布したプリントや資料で復習をするようにしてください。		
評価方法	1. 定期試験（％） 2. 小テスト（％） 3. レポート（80％） 4. 課題成果（20％） 5. 実地試験（％）	評価方法はG P A 制度となります 1 0 0 ～ 9 0 点 S 8 9 ～ 8 0 点 A 7 9 ～ 7 0 点 B 6 9 ～ 6 0 点 C 5 9 点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	身体について学んでいくうえでの土台になります。人体の構造を理解して、身体に起こる変化をきちんと理解ができるように学んでいきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			
日本スポーツ協会 リファレンスブック			
各デバイス			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業	パフォーマンス	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	福田 翼
科目名 (英)	アスレティックリハビリテーション概論 (Introduction of Athletic Rehabilitation)						
学科	スポーツマネジメントテクノロジー科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間（Ⅰ・Ⅱ部）			(単位)	2	曜日・時限	火曜・4限

【授業の学習内容】

アスレティックトレーナーの全体的な役割を学び、中でもアスレティックリハビリテーションについての基礎となる概論を学んでいきます。アスレティックリハビリテーションとは選手が競技復帰を目指すために行うリハビリテーションのことです。評価、問題点の抽出、改善策の考案、プログラム指導に関連する基礎的知識を学び、実践できるように学びます。

* 実務経験:

2017年よりアスレティックトレーナーとして、トライアスロン選手や社会人フットサルチームなどのサポートを行う。また、アスリートのトレーニング指導を行うパーソナルトレーナーとしても活動している。選手の怪我の応急処置や予防・再発予防のためのコンディショニング、テーピングなどを行っている。

【到達目標】

アスレティックリハビリテーション概論で基礎的知識を学ぶことで選手がより早期に、より安全に競技復帰ができるようになる。そのための基礎となる知識を習得する。

目標① アスレティックトレーナーの役割を理解する

目標② アスリハを行う上で必要な情報収集をすることができる

目標③ アスリハプログラムの作成、説明することができる。

授業計画・内容			
1回目	アスレティックトレーナーの役割を学び、説明できる①		
2回目	アスレティックトレーナーの役割を学び、説明できる②		
3回目	アスレティックトレーナーの役割の確認テスト、アスレティックリハビリテーション全体の流れをイメージする		
4回目	競技特性を理解し、自分の専門競技について説明できる		
5回目	身体評価から問題点の抽出を行い、アスレティックリハビリテーションプログラム作成に必要な情報収集を行う①		
6回目	身体評価から問題点の抽出を行い、アスレティックリハビリテーションプログラム作成に必要な情報収集を行う②		
7回目	段階的負荷設定の考え方を理解し、アスレティックリハビリテーションプログラムの作成がおこなえる		
8回目	実際の現場を想定して、トレーナーとしての役割をイメージする①		
9回目	実際の現場を想定して、トレーナーとしての役割をイメージする②		
10回目	AT過去問題を例に挙げ、アスレティックリハビリテーションプログラムの作成を行い、説明できる①		
11回目	AT過去問題を例に挙げ、アスレティックリハビリテーションプログラムの作成を行い、説明できる②		
12回目	AT過去問題を例に挙げ、アスレティックリハビリテーションプログラムの作成を行い、説明できる③		
13回目	復習		
14回目	定期試験		
15回目	まとめ・解説		
準備学習 時間外学習	AT試験向け、概論の理解を深めるために、しっかりテキストを読み返すことが重要です。 AT過去問から、「ATの役割」「アスリハ」範囲を抜き出し、繰り返し解いてみましょう。		
評価方法	1. 定期試験（70％） 2. 確認テスト（20％） 3. 受講態度（10％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	現場での話も交えつつアスレティックリハビリテーション概論を伝えいてくので、当事者意識を持って積極的に参加してください。		
【使用教科書・教材・参考書】			
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 1巻「アスレティックトレーナーの役割」 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7巻「アスレティックリハビリテーション」			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業	コンディショニング	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	伊藤　ひとみ
科目名 (英)	フィットネスプログラム概論 (Fitness Program Introduction)						
学科	スポーツマネジメントテクノロジー科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間（Ⅰ・Ⅱ部）			(単位)	(2)	曜日・時限	火曜・2限
【授業の学習内容】 フィットネスプログラムを経験して、理解を深めていく。 *実務経験: 2000年からインストラクターとして活動。スポーツクラブでのエアロビクス・ダンス系・調整系等の指導。 養成コースの講師経験やプログラム開発、パーソナルトレーナーも実施。 保有資格：日本フィットネス協会ADI・健康運動実践指導者・健康運動指導士							
【到達目標】 様々なプログラム体験を通して、経験値を高め将来につなげる。							

授業計画・内容			
1回目	フィットネスプログラムの種類を理解し、説明できる		
2回目	有酸素系プログラムを理解し、説明ができる		
3回目	有酸素系プログラムの実践を通して理解し、説明ができる①		
4回目	有酸素系プログラムの実践を通して理解し、説明ができる②		
5回目	調整系プログラムを理解し、説明ができる		
6回目	調整系プログラムの実践を通して理解し、説明ができる		
7回目	ダンス系プログラムを理解し、説明ができる		
8回目	ダンス系プログラムの実践を通して理解し、説明ができる		
9回目	ヨガ系プログラムを理解し、説明ができる		
10回目	ヨガ系プログラムの実践を通して理解し、説明ができる①		
11回目	ヨガ系プログラムの実践を通して理解し、説明ができる②		
12回目	復習・試験対策		
13回目	試験対策		
14回目	定期試験		
15回目	試験解説		
準備学習 時間外学習	実際にフィットネスクラブへ行き、リアルな現場を体験する機会を作ってみよう。		
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	授業態度(20%) 出席状況(20%) 定期試験(60%)
受講生への メッセージ	スポーツ業界を知る一つとして、共に理解を深めましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			
健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業	スポーツビジネス	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	水谷 匡宏
科目名 (英)	スポーツマネジメント演習Ⅰ (Sports Management SeminarⅠ)						
学科	スポーツマネジメントテクノロジー科	授業 形態	演習	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間（Ⅰ・Ⅱ部）			(単位)	(2)	曜日・時限	木曜・2限

【授業の学習内容】

映像を使ってスポーツの新しい可能性を考えて、技術を習得する。

*実務経験:

映像制作会社の取締役として映像の開発・制作を担う。

【到達目標】

映像制作の基礎を習得する。

スポーツと映像の現状と新しい活用方法を考える

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション・カリキュラムの目的・到達目標
2回目	スポーツビジネスの現状と課題を理解する
3回目	Adobeツールを使ってスポーツビジネスのデザインを学ぶ
4回目	アイデア創出ワークショップの流れを理解する
5回目	スポーツビジネスの企画とデザインの実習を行う
6回目	スポーツビジネスの企画とデザインの実習を行う
7回目	スポーツビジネスの企画とデザインの実習を行う
8回目	スポーツビジネスの企画とデザインの実習を行う
9回目	スポーツビジネスの企画とデザインの実習を行う
10回目	スポーツビジネスの企画とデザインの実習を行う
11回目	スポーツビジネスの企画とデザインの実習を行う
12回目	スポーツビジネスの企画とデザインの実習を行う
13回目	スポーツビジネスの企画とデザインの実習を行う
14回目	スポーツビジネスの企画とデザインの実習を行う
15回目	スポーツビジネスの企画とデザインの実習を行う

準備学習 時間外学習	映像に興味を持ってその活用方法と今後の可能性を考察する。
---------------	------------------------------

評価方法	1. 定期試験（50％） 2. 小テスト（％） 3. レポート（％） 4. 課題成果（50％） 5. 実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
------	--	---

受講生への メッセージ	映像の制作（企画・撮影・編集）の技術と考え方を基礎にスポーツでの映像の新しい活用方法考えて行きましょう
----------------	---

【使用教科書・教材・参考書】

・講師が教材を用意いたします。（プリント配布・データー）

・USBを持参して下さい。

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業	スポーツビジネス	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	井戸田 修一
科目名 (英)	スポーツマネジメント演習Ⅱ (Sports Management SeminarⅡ)						
学科	スポーツマネジメントテクノロジー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
コース	昼間 (Ⅰ・Ⅱ部)					曜日・時限	金曜・3限
【授業の学習内容】 子どもの運動指導及び子どもイベントの企画・運営。スポーツイベントの運営や予算案など、キッズ及びスポーツ全体のマネジメントについての知識を学び、演習を通して子供の運動指導や子供イベントの企画・運営・予算管理等を実施していく。							
実務者経験：大学卒業後、スポーツクラブで約12年勤務。自分自身の現場の中で培った接客等のスキルはもちろん、店長としての現場マネジメントを通して、店舗運営や人材育成等多岐に渡り担当。スタジオレッスンも多数担当。 過去1レッスン内にて120名近くの集客実績もあり。							
【到達目標】 子どもの運動指導の実施スキル・イベント企画・運営力等現場でマルチに動けるスキルを身につけられるようにする							

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション		
2回目	子どもの運動指導についての内容を理解し、指導スキルを習得する①		
3回目	子どもの運動指導についての内容を理解し、指導スキルを習得する②		
4回目	子どもイベントを企画するための知識を身につけ、実際に企画できるようになる①		
5回目	子どもイベントを企画するための知識を身につけ、実際に企画できるようになる②		
6回目	スポーツイベントを企画するための知識を身につけ、実際に企画できるようになる①		
7回目	スポーツイベントを企画するための知識を身につけ、実際に企画できるようになる②		
8回目	イベントを運営する上での予算管理についての知識を身につけて説明ができるようになる①		
9回目	イベントを運営する上での予算管理についての知識を身につけて説明ができるようになる②		
10回目	販売促進のツールについての知識を身につけて、実際にツール作成ができるようになる①		
11回目	販売促進のツールについての知識を身につけて、実際にツール作成ができるようになる②		
12回目	試験対策演習①		
13回目	試験対策演習②		
14回目	定期試験		
15回目	試験解説		
準備学習 時間外学習	運動指導について気を付けることなどを事前に調べ、安全に実施ができるようにするにはどうするかを調べておくようにする		
評価方法	1. 定期試験（90％） 2. 小テスト（％） 3. レポート（％） 4. 出席率（10％） 5. 実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	指導や企画のみに特化するだけではこれから先の社会では通用しないです。双方のスキルを身につけて自身で企画から運営まで携われるような人材になれるように学んでいきましょう！		
【使用教科書・教材・参考書】			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業	イベント	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	松沢 恵美
科目名 (英)	スポーツエンターテイメントⅠ (Sports Entertainment Ⅰ)						
学科	ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄﾄｸﾉﾛｼﾞ-科	授業	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間（Ⅰ部）	形態		(単位)	(2)	曜日・時限	火曜・3限
【授業の学習内容】 コーチングの知識を、リファレンスブックで学んでいく。スポーツを通して社会に貢献していく人材として必要となる、コーチングスキルを学び、日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー資格を取得する。							
実務者経験：2003年に日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を取得。その後、ハンドボール、テニス、陸上競技を中心とした現場でｺｰﾁｨﾝｸﾞ、トレーニング指導を担当。テニスにおいてはプロ選手の専属もおこない、日本テニス協会主催の国際大会においてオフィシャルトレーナーを務める。							
【到達目標】 ①日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダーの資格取得を目指す ②現場におけるコーチング力を身につける							

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション（個々の取り組み・現状を共有する 9		
2回目	スポーツエンターテイメントを知る①（スポーツの競技性視点から）		
3回目	スポーツエンターテイメントを知る②（観戦性視点から）		
4回目	スポーツエンターテイメントを知る③（エンタテインメント要素の視点から）		
5回目	スポーツエンターテイメントを知る④（エンタテインメント要素の視点から）		
6回目	プレゼンテーション		
7回目	コーチングリーダー資格取得に向けて コーチングを理解する①（コーチに求められる役割）		
8回目	コーチングリーダー資格取得に向けて コーチングを理解する②（対他者力・対自己力を磨こう）		
9回目	コーチングリーダー資格取得に向けて コーチングを理解する③（スポーツの意義と価値、スポーツ権）		
10回目	コーチングリーダー資格取得に向けて コーチングを理解する④（ガバナンスとコンプライアンス）		
11回目	コーチングリーダー資格取得に向けて コーチングを理解する⑤（暴力・ハラスメントの根絶、インテグリティ）		
12回目	コーチングリーダー資格取得に向けて コーチングを理解する⑥（指導者の法的責任、スポーツ仲裁・スポーツ倫理）		
13回目	まとめ		
14回目	定期試験		
15回目	解説		
準備学習 時間外学習	授業中の板書及び、配布したプリントや資料で復習をするようにしてください。		
評価方法	1. 定期試験（％） 2. 小テスト（％） 3. レポート（80％） 4. 課題成果（20％） 5. 実地試験（％）	評価方法はG P A 制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	身体について学んでいくうえでの土台になります。人体の構造を理解して、身体に起こる変化をきちんと理解ができるように学んでいきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			
日本スポーツ協会 リファレンスブック			
各デバイス			